



The Global Language of Business

JANコードだけじゃない！
いろいろ使える
ジーエスワン
GS1 識別コード



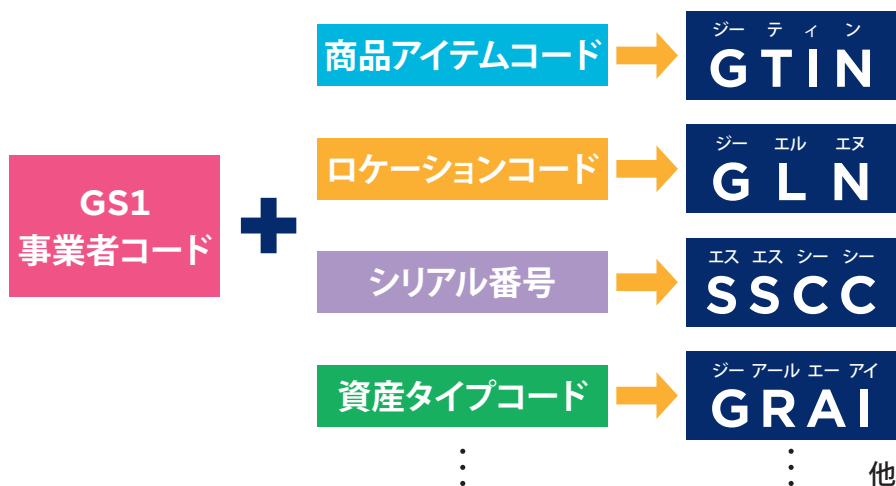
GS1 Japan

一般財団法人
流通システム開発センター

GS1識別コードとは？

GS1識別コードは、GS1が定めている国際標準の識別コードです。商品やサービスを識別するためのJANコード（GTIN）をはじめ、企業や事業所、通い容器や資産など、様々な用途に応じた識別コードが定められています。

どのGS1識別コードも、GS1事業者コードを元に設定するため、世界中で他と重複することなく、対象を識別することが可能です。



GS1識別コードの活用

最も広く利用されているGTINは、小売業のPOSシステムにおける商品販売をはじめ、商品の流通に関わるさまざまな業務に活用されており、最近では、インターネット販売や業務用商品の分野などにも利用が広がりつつあります。

またGTIN以外のGS1識別コードも、企業・事業所識別コードであるGLNの流通BMSでの利用や、カゴ台車やパレット等の物流用通い容器にGRAIを書き込んだ電子タグを取り付けて追跡管理を行うなどの活用が始まっています。

用途に応じて、さまざまなGS1識別コードを活用することにより、精度が高く効率的な商品管理、物流管理、資産管理の実現が期待されます。

- 様々な取引に (B to Bにも、B to Cにも)!
- 世界で唯一の識別を可能に!
- 安心・安全を確かなものに!
- バーコード、電子タグ、EDI、データベースに!

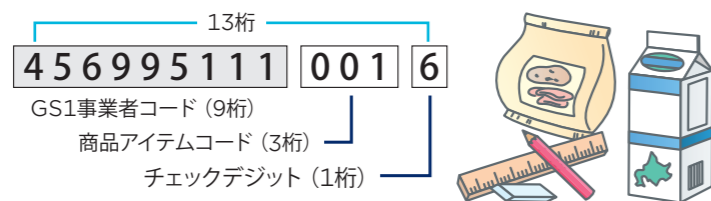
※注意：本パンフレット上のコードの数字はすべてサンプルです。実際に設定される際の数字とは異なります。
 GS1事業者コードには9桁と7桁のものがありますが、本パンフレットでは9桁のGS1事業者コードを用いた設定例を示しています。

商品 GTIN (Global Trade Item Number)

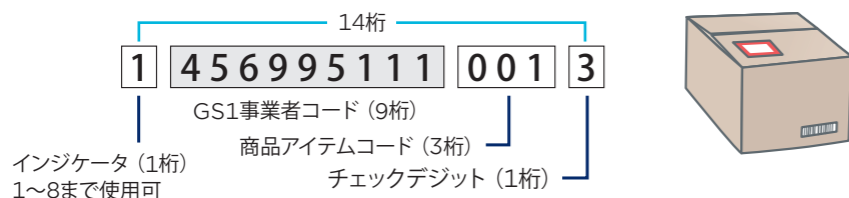
商品識別コード

商品識別コードの総称です。JANコード（13桁、8桁）、集合包装用商品コード（14桁）、U.P.C.（12桁）があります。ここでは最も一般的に使用される13桁のJANコードと集合包装用商品コードについて説明します。

JANコード（標準13桁：国際的にはGTIN-13と呼ばれます）
 消費者購入単位で設定される商品識別コードです。ほとんどの商品への表示が行われており、現在ではサービスの識別やネット販売にも利用されています。通常JANシンボルにより表示されます。



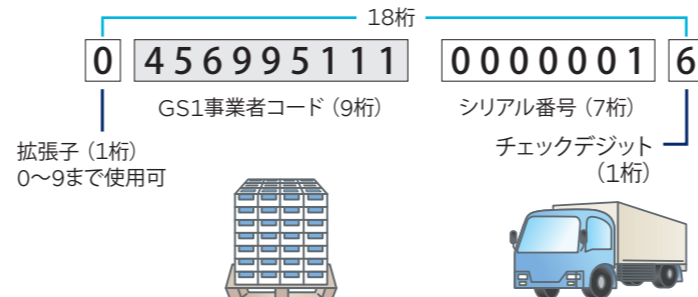
集合包装用商品コード（国際的にはGTIN-14と呼ばれます）
 企業間の取引単位である集合包装に対して設定される商品識別コードです。通常ITFシンボルにより表示されます。



物流 梱包 SSCC (Serial Shipping Container Code)

出荷梱包シリアル番号

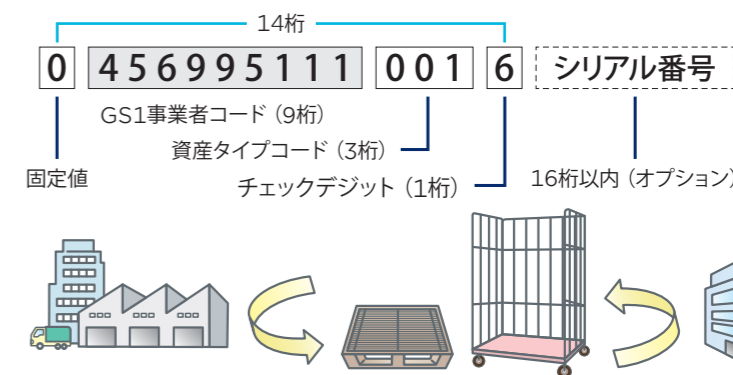
物流・出荷などの輸送用梱包単位の識別コードで、欧米を中心に利用が進められてきました。日本でも、GS1-128シンボル、EPCタグ（電子タグ）による利用が始まっています。



通い 容器 GRAI (Global Returnable Asset Identifier)

リターナブル資産識別番号

カゴ台車や折り畳みコンテナなどの、企業間で繰り返し利用する資産を管理するための識別コードです。GS1-128シンボルやEPCタグ（電子タグ）などによる利用が進んでおり、資産追跡、メンテナンス管理の向上などを実現できます。

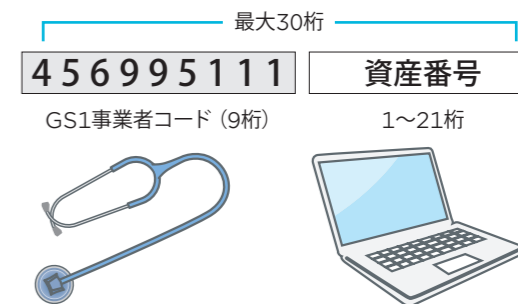


利用が
始まっ
ていま
す

資産 GIAI (Global Individual Asset Identifier)

資産管理識別番号

企業の資産を管理するための識別コードです。レンタル・リース品管理、手術用具や医療器具のメンテナンス管理やトレーサビリティなど、個々を識別する必要のある資産管理に利用されます。

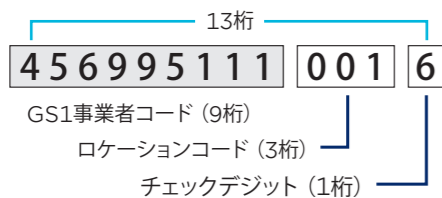


今後の利用
が期待され
ています

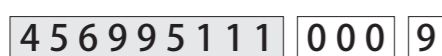
場所 GLN (Global Location Number)

企業・事業所識別コード

企業・事業所の識別コードです。企業間取引で必要となる各事業所、事業部門等を設定できます。流通BMSなどの企業間電子データ交換（EDI）における送受信先の識別コードとしての利用が進んでいます。



基本GLN
 登録事業者自身を特定するためのGLNです。ロケーションコードには000を使用します。



いろいろ使える GS1 識別コード

商品やサービス、場所、資産など、
 様々な用途に応じた識別が可能です。

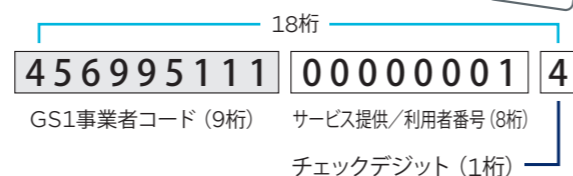
GS1識別コードは、GS1事業者コードに
 様々な番号を組み合わせ使用します。

広く利用
されています

サービス利用者・提供者 GSRN (Global Service Relation Number)

サービス提供者／受益者識別番号

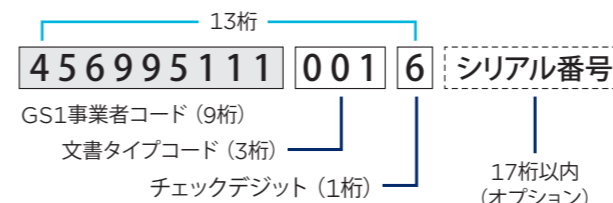
サービスの提供者と利用者を管理するための識別コードです。店舗、図書館、病院などでの利用が期待されています。



文書 GDTI (Global Document Type Identifier)

文書識別番号

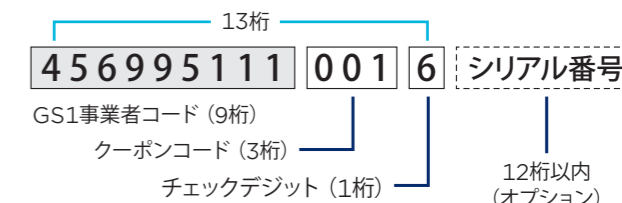
管理が必要な文書の識別コードです。通関申告書や保険証券などへの利用が期待されています。



クーポン GCN (Global Coupon Number)

クーポン識別番号

クーポンのための識別コードです。インターネットの普及に伴いクーポン券の電子化が進んでおり、携帯電話での利用が想定されています。



GS1識別コードを表示するためのデータキャリア

GS1識別コードは、下記のようなバーコード、電子タグなどのデータキャリアを用いて、商品などに表示あるいは添付することができます。

JANシンボル、ITFシンボル以外のバーコードシンボルでは、GS1識別コードの先頭に、GS1アプリケーション識別子 (AI) という情報の種類を表す数字を付けます。AIは2桁から4桁の数字で、例えば (01) であればGTINを意味しています。

使用できるデータキャリアは、GS1識別コードの種類や識別対象、利用業界、使用環境などにより異なります。実際の使用にあたっては当財団までご相談ください。

JANシンボル



ITFシンボル



GS1-128シンボル



GS1データマトリックス



GS1 QRコード



GS1データバー



EPCタグ (電子タグ)



(シンボル見本は実寸法ではありません)

GS1事業者コードを利用するには

GS1事業者コード (旧名: JAN企業コード*) は、GS1識別コードを設定するために必要となる9桁または7桁の番号です。日本では、当財団が個々の事業者に対し、コードが重複しないように貸与しています。

GS1事業者コードを利用するには、当財団への登録申請が必要です。

すでにJANコードなどを利用されている場合は、貸与されているGS1事業者コードを、そのまま他の識別コードにもご利用いただけます。

* 「GS1事業者コード」は、従来「JAN企業コード」と呼ばれていましたが、2012年4月より「GS1事業者コード」へ名称変更しました。

ジーエスワン

GS1とは?

GS1は、100以上の国と地域が参加する、国際標準の流通システムを推進する機関です。(1) 各種の識別コード (Identify)、(2) バーコードシンボルや電子タグ等のデータキャリア (Capture)、(3) 商品マスタ情報やEDI等の情報共有のしくみ (Share) の3つの要素で構成される各種のGS1標準を策定し、導入・普及をサポートしています。GS1 Japanは、日本におけるGS1の代表機関です。

GS1 Japanについて

GS1 Japanは、1972年に流通情報システムの合理化・標準化のために設立された専門機関です。流通業とその関連業界のシステム化に不可欠な、JANコードをはじめとした各種標準識別コード、バーコードや電子タグなどの自動認識技術、EDI(電子データ交換)、データベースなどの標準化と普及を推進しています。また、国際標準の流通システムを推進する機関であるGS1に日本の代表機関として参加しています。

GS1 識別コードに関するお問い合わせ先

GS1 Japan (一般財団法人流通システム開発センター)
〒107-0062
東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル東館9F
ソリューション第1部 グロサリー業界グループ
TEL: 03-5414-8506
E-mail: aidc@gs1jp.org

www.gs1jp.org